

人生のわくわく探そう

子どもの
いま
未来
2017

NPO「キーパーソン21」朝山あつこさん

わくわくして動きださずに
いられない。そんな原動力の
ようなものが誰にだってある
はずだ。それを見つけてられ
ば、子どもたちは自分で動き
だす。川崎市のNPO法人
「キーパーソン21」の代表、
朝山あつこさん(55)は、その
原動力を「わくわくエンジン
」と呼び、子ども一人一人
から引き出す活動を続けてい
る。

▼3万5千人超え
例えばアニメが好きなら、
アニメがわくわくエンジンな
のだろうか。朝山さんによれ
ば、そうではない。
野球に夢中な子どもがいれ
ば、大人はつい「野球選手に

なれば」と言っ。しかし、プ
ロ選手にまでなれる人は多く
ない。中学高校ぐらいになる
と「おれ、プロは無理だし」
と気付き、挫折したような気
持ちはなる。
キーパーソン21のプログラ
ムと一緒に受けた中学生の中
で、3人が野球に打ち込んで
いたケースがあった。なぜ野
球が好きなのか。突っ込んで

聞くと、A君は作戦を立てる
こと、B君はチームに自分が
役立っていること、C君は素
振りや筋トレで日々、成長を
感じることと答えた。わくわ
くエンジンは三者三様だった。
それなら3人とも打ち込む
対象は野球に限らない。「こ
のわくわくエンジンを自分で
見つけているか、親や先生が

「自分」発見、輝く社会に

会う大人と会話し「伝える・
尋ねる・お願いする」の3関
門突破を目指すコミュニケー
ションゲーム…。
わくわくエンジンを見つけ
た子は劇的に変わると朝山さ
んは言う。最近も小6から不
登校だった男子高校生が、個
別プログラムを受けた後、急
に登校し始めた。



コミュニケーションの始まり。紙にニックネームを書いて自己紹介する(キーパーソン21提供)



キーパーソン21の運営についてスタッフと話し合う朝山あつこさん(川崎市の事務所)

キーパーソン21の歩み	
1998年	朝山、長男の学校崩壊に直面
2000年	「キーパーソン21」設立
01年	学校での「おもしろい仕事人がやってくる」講演とワークショップ開始 ・NPO法人化
03年	「夢!自分!発見プログラム」開発スタート
07年	企業やNPO団体との連携スタート
12年	東日本大震災被災地の高校生対象にキャリア教育プログラム
13年	児童養護施設へのキャリア教育支援 ・東京の小学校1校で教員全員を対象にキャリア教育研修
14年	生活保護世帯の中学生の学習支援始める

(敬称略)



「好きなものビンゴ」をする小学生たち

いずれかのプログラムを受
けた子は3万5千人を超え
た。
▼荒れる学校
朝山さんは男の子3人の母
親。18年前、中2だった長男
の学校が荒れた。生徒が暴
れ、廊下に牛乳をまき、トイ
ツを壊す。ひどく無気力にな
る子もいた。「暴れる子も無
気力な子も退屈そうに見え

た。何に向かつて生きていく
か分からなくなっているよう
でした」と朝山さん。目標は
親や先生に与えられるだけ。
主体性が奪われてしまってい
るのではないか。
長男は中3になって「高校
に行かない」と言い出す。そ
れは朝山さんの固定観念を揺
さぶった。「一本取られたと
思いました。確かにこれが学
校だと思ったら学校に行きた
いと思っわけはない。学校や
地域、家庭、日本の教育のあ
り方そのものが問われてい
る」と気付く。
自分の子どもだけの問題で
はないと2000年、キパー
ソン21を創設する。NPO
の活動と自らの子育て経験か
ら、課題とその解決の道筋を
つかみ「一人一人が輝く」と
いう理想の実現に向けて走っ
ている。
— 第4土曜日掲載 —

万年筆

球児を撮り続け半世紀

四位 邦明

高校球児を半世紀以上にわたり撮り続けたアマ写真家の木脇文三さんが亡くなった。昨年10月までは、球場通いをされ私もお会いしていただけに今でも信じられない気持ちだ。木脇さんとは共に大の高校野球ファンという共通項もあって親しくさせてもらっていた。また毎年開催されていた「高校野球写真展」の手伝いを友人の長谷川君と一緒にさせてもらっていた。今年は節目の10年目に当たりご本人も張り切っておられたのだが…。

球場ではバックネット裏最前列や一塁側寄りが木脇さんの指定席だった。驚きはスコアブックを付けながらの撮影。まさに神業だった。写真は、その都度現像して球児にプレゼントされていた。よく、野球放談もさせてもらった。これが話し始めるとノンストップ!。議論は白熱するが、それが楽しかった。もうそれもできなくなり寂しい限りだ。2010年夏には、甲子園球場の外側通路に敷かれたレンガに、ご自分の名前

と「ありがとう甲子園」のメッセージを刻む機会に恵まれた。当時、「私の宝物です」とうれしそうに言っていたのを思い出す。先日、木脇さんがよく通われた旧県営球場に足を運んでみた。そこには木脇さんの母校宮崎工ナインが、夏の甲子園を目指して練習に励むいつもの風景があった。「木脇さん、お世話になりました。天からも球児の雄姿を撮ってやってください」。空を見上げ、つぶやいた。合掌。(宮崎市・69歳)

茶の間

母のこと

日高エツ子

四国は愛媛県の佐田岬半島の真ん中辺りに私の実家はあります。道路事情が良くなったとはいえ、自宅から朝早く出発しても到着は昼頃。1年に1度、母の顔を見に帰るのが精いっぱいです。
故郷は、いつ帰っても懐かしく、子ども頃の頃にタイムスリップします。今年93歳の母は目も耳も達者。子供に食べさせることが楽しみであるかのようにミカンを育てています。剪定(せんてい)、消毒、袋掛けと身長以上の木と格闘しています。
私たちは7人きょうだい。徳島の姉は体調不良で帰れなかったけど、今年3月、ミカンの収穫時期に、名古屋(妹)、大阪(弟)、松山(妹2人)と、父の葬儀以来二十数年ぶりに6人がそろいました。現役は3人であとは後期高齢者。菜園や、習い事、俳句など人生を楽しんでいます。
実家から5分も行けば海。フカメ、ヒジキなど海の恵みもあり、信心深い母は生かされている事に感謝して暮らしています。でも年には勝てず、帰るたびに母は小さく丸くなっていく気がします。
「私は毎日する事があるから元気ながよ」と、新品種栽培にも挑戦し、実を付けるのを楽しみにしています。中山間地の実家は人が減り、そんな光景に寂しくなります。「私は百歳まで生きるけん、心配せんでええよ」と、逆に母から元気をもらって帰途に。来年も大好きな鍋を持って帰るからね。お母さん。(国富町・主婦・69歳)

洋風おでん

2人分で鶏もも肉120g、ウインナーソーセージ50g、玉ネギ120g、ニンジン50g、エリンギ60g、サヤインゲン20g、プチトマト4個、アイヨン1と1/2杯を用意します。

鶏肉は一口大に切り、玉ネギはくし切り、ニンジンは乱切りにします。エリンギは十字に切り、サヤインゲンは長さ5センチに切り、プチトマトはヘタを取ります。鍋にアイヨンと、塩、こしょう各少々を入れ、鶏肉、ウインナー、玉ネギ、ニンジンを煮ます。これらがやわらかくなったらエリンギ、サヤインゲン、プチトマトを加えて煮ます。お好みでマスタードを付けていただきます。(1人分260キロカロリー、塩分2.2グラム)

献立のヒント

